

[特集]フィンテックの進展とその将来像

フィンテック用語集

編集：株式会社価値総合研究所 代表取締役社長 山本 貴之

[アルファベット]

AI (Artificial Intelligence 人工知能)：人が行う知的作業をコンピュータが行うシステム。コンピュータが自ら学ぶディープラーニング技術の発達により、AIが活躍する領域が飛躍的に拡大した。金融分野でもロボアドバイザーや生体認証など多様な用途で活用されている。

API (Application Programming Interface)：ソフトウェア間の橋渡しをする接続方式。これを外部に公開するオープンAPIが新たな金融サービスの開発や提供を加速させると注目されている。わが国の銀行法は2017年改正で、銀行にAPIの公開につき努力するように義務付けている。

ICO (Initial Coin Offering 新規仮想通貨公開)：未公開の仮想通貨やトークンの予約販売を行うことで投資家から資金調達する手法。Web上に掲載されたホワイトペーパーにより資金使途や今後の開発スケジュール等を投資家に示す。

IoT (Internet of Things)：「もの」のインターネット化。すべての「もの」やサービスがインターネットでつながること。フィンテックを推進する重要な基盤ともなっている。

UX (User Experience)：金融商品やアプリに対する利用者の体験の質。主に利便性に関する認識や好感度を示す。UXが高ければ、利用者によって強く支持される。

[ア行]

ITリテラシー：ITを積極的に活用し、その効用を享受しようとする意識。ITリテラシーの高い世代がフィンテックの担い手となっている。

アクセラレータ・プログラム：フィンテック企業などのベンチャー企業を支援して成長を加速させる取組み。起業を促すインキュベーションプログラムとは異なるが、方向性は同じ。

アンバンドリング (分解)：従来は一体的に提供されてきた金融サービスがフィンテックの潮流の中で分解され、個々のサービスに優れたフィンテック企業が顧客に個別にサービスを提供するようになること。

eコマース：電子商取引。実際の店舗を介さずネット上でモノやサービスを売買する取引。

ウェアラブル端末活用型医療保険：被保険者が装着したウェアラブル端末を通じて歩行数など健康習慣に係る情報や脈拍・体温等の生体データを取得して保険料に反映させる医

療保険。

エコシステム：企業群によって形成された生態系。この中で企業間の多種多様な連携や協働を促すことにより、フィンテックなどの革新的なビジネスモデルの醸成が促進される。

オープンイノベーション：異なる企業や業種・業態間の交流によりさまざまな技術やノウハウなどを相互に提供し合うことで革新的なビジネスモデルを創造しようとする取組み。

オンライン海外送金サービス：同価額を同時期に双方向に海外送金する人同士をネットでマッチングし、実際は国内の送金取引に変換して手数料を縮減するといった金融サービス。

[カ行]

仮想通貨：ブロックチェーン技術を利用した決済アプリケーションやブロックチェーンを利用したサービス内で用いられる決済手段（トークン）を指す。発行主体や管理者がいないものもある。現状では価格変動が大きいものが多い。転売を目的とした購入・売却による価格の乱高下やブロックチェーン技術そのものへの関心から近年注目を浴びている。

キャッシュレス化：現金を使わない決済や取引に移行すること。現金の管理・移送コストの削減といった経済効果がある。

クラウド会計：領収書をスマホで撮影して自動仕分けし、決算書類・税務申告書の作成を支援するサービス。

クラウドコンピューティング：手元のコンピュータでの利用に代えて、インターネットなどのコンピュータネットワークを通じてデータを管理・蓄積して情報を処理する利用形態。

クラウドファンディング：ネットで資金の出し手を募る資金調達手法。寄付型（対価なし）、購入型（対価として新商品などを提供）、融資・投資型（対価として株式や配当などを提供）といったさまざまなタイプがある。

[サ行]

自動家計簿 (PFM: Personal Finance Management)：金融機関の情報と連動して入出金を自動管理するサービス。金融機関のAPIとの連携で利便性・セキュリティ面が向上する。

生体認証：生体情報を用いて本人確認する仕組み。指紋認証、顔認証、眼底血流や声紋による本人確認など、さまざまな技術が開発されている。

ソーシャルレンディング：ネット上で借り手と貸し手を募り、両者をマッチングさせて金融取引を行うこと。仲介業者はネット上の信用情報等を活用し独自の審査を行う。

【タ行】

デビットカード：銀行などの預金口座に紐付けられたカード。金融機関が発行したカードを商品購入などで使用すると即時に預金口座から同額が引き落とされる。

テレマティクス自動車保険：情報機器を被保険者の車に搭載し、走行距離や運転の特徴を計測して保険料に反映させる自動車保険。

電子マネー：あらかじめチャージされたお金を現金の代替として用いて、モバイル機器や専用カードにより決済するもの。

トランザクションレンディング：店舗の出店者の入出金など日々の取引に関するネット情報を用いて簡単な審査で少額を随時融資するサービス。

【ハ行】

ハッカソン：プログラマー同士の交流イベント。フィンテック関連を含む参加企業の技術開発に貢献することが多い。

P2P (Peer to Peer) ネットワーク：コンピュータ機器同士が対等な立場で直接通信を行うネットワークの形態。

ビッグデータ：社会に集積されたさまざまなデータの集まり。これを解析することで多様な革新的ビジネスを生み出せるといわれている。

ビットコイン：代表的な仮想通貨の一つ。仮想通貨と呼ばれるものの中で時価総額が最も大きい。

フィンテック (FinTech)：金融 (Finance) と技術 (Technology) を組み合わせた造語。一般には、ITの最新技術を駆使した革新的な金融サービスを指す。

フィンテック企業：フィンテックの担い手となっているベンチャー企業。IT技術を活用して新たな金融サービスを展開している。

フィンテック・ファンド：フィンテック企業に対する投資を専門的に行うファンド。

ブルーフ・オブ・ワーク：計算力により不正を排除し、正しい記録を維持承認する仕組み。

ブロックチェーン：取引記録 (ブロック) を鎖 (チェーン) のように連続的につないで収納していく仕組み。システムダウンに強く、改ざんに強く、コストが安いという特色を持つ。

【マ行】

マイニング：特定条件を満たすランダムな数字を計算するための作業。この作業により正解を導くことにより仮想通貨の取引記録を確定させる。また、マイニングを行ったものには

仮想通貨による報酬が与えられる。

ミレニアル世代：21世紀になって成人した世代。米国では1980年～2000年生まれ世代 (2018年基準で18歳から38歳の世代) を指し、米国の全人口の約40%と最多層を占める。

モバイル決済：現金を使わずにスマホなどモバイル機器で買い物などを決済すること。

【ラ行】

リバンドリング (再編成)：アンバンドリング (分解) の対義語で、アンバンドリングした後に、既存の金融機関がフィンテック企業と連携あるいは吸収統合していくことにより優れた金融サービスの供給主体が再び一体化していくこと。

ロボアドバイザー：AIを使ったロボットが、安価な手数料で顧客ニーズに合った資産運用について、有能な人のアドバイザーが行うのと同じように助言するサービス。

<参考文献>

FinTech 2.0 金融とITの関係がビジネスを変える

楠真 著 2016年 中央経済社

FinTech入門 テクノロジーが推進する「ユーザー第一主義」の金融革命

辻庸介・瀧俊雄 著 2016年 日経BP

Fintechとは何か 金融サービスの民主化をもたらすイノベーション

隈本正寛・松原義明 著 2016年 金融財政事情研究会 決定版 FinTech 金融革命の全貌

加藤洋輝・桜井駿 著 2016年 東洋経済新報社 まるわかりFinTechの教科書

丸山隆平 著 2016年 プレジデント社

FinTechの衝撃 金融機関は何をすべきか

城田真琴 著 2016年 東洋経済新報社

要点解説&図解 60分でわかるフィンテック

みずほ総合研究所 著 2016年 近代セールス社

Fintechビジョン 2017年5月8日 経済産業省